

令和7年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
自分のよさを切り拓く子ども ①進んで勉強しよう ②思いやりのある人になろう ③丈夫な心と体をつくらう ④ふるさと(浦里)に学ぼう	自ら気づき 自ら問いかけ(考え) 自らやってみる 子どもに
	今年度の重点目標
	① 子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～
	② 自他のよさを認め合う場面の位置づけ
	③ 運動・遊びの日常化
④ 地域と連携したふるさと学習	

総合評価					
それぞれの重点目標ごとに成果はあったが、課題もはっきりとしてきた。来年度に向けてもう一度職員で願いについて話し合い、子どもたちの思いも聞きながら、目標の焦点化をし、職員も、子どもも、保護者も、地域も、一つの方向に向かってそれぞれに取り組めるようにしていきたい。少人数だからそのよさを引き続き大切にしながら、今年度より始めた川西小学校との交流や遠隔教育を来年度はさらに発展させていきたい。地域との連携が深まったので、お互いにコミュニティスクールのよさを感じられるように、話し合う機会をもち、さらに子どもたちの願いを大切に活動していきたい。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
多数の職員で情報を共有しながら支援を考えて行ったが、個別の支援だけでなく、全体のUD化について課題が残る。		○			苦手や課題を感じている児童がわかりやすい授業は全員にとってわかりやすいことを確認し、授業を見直していく。
川西小学校との交流が、普段とは違うよさや、自分たちのよさに改めて気づくことにつながった。	○				自他のよさを認める場としても、振り返りの場を大切にしてい。様々なよさに気づくためにも交流学習を大切にします。
年間を通して朝マラソンが習慣化し、特にマラソン大会前後に休み時間も自主的に走る姿が見られた。	○				引き続き、校庭や体育館での遊びが続くよう、環境を整えたり時には一緒に遊んだりしていく。
地域の方との話し合いを大切に連携することで、子どもたちの思いから活動に取り組むことにつながった。子どもたちはふるさとへの思いを深め、自発的な活動が生まれた。	○				さらに子どもたちの願いを大切に、主体的な学習につながるよう連携していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
重点目標	①	学習に向かう姿勢	基礎基本の力をつけ、子どもが粘り強く学習に取り組めるよう支援したか。
		自己表現する力	一人で考えたり、意見を共有したりする場面をとるなどして、自分の考えを表現できるよう支援したか。
		個別最適な学び	一人一人の学び方の個性を生かしたり、合理的な配慮に基づいたりした学習を保障しているか。
	②	異年齢の友だちとの活動	縦割り班、連学年授業、連学年担任制、こまゆみ教室、保育園との交流などを通して、相手を思いやる意識を高める場面が設定できたか。
		コミュニケーション能力の育成	人権感覚を磨き、互いに認め合える集団づくりができたか。
		自己有用感の育成	学級活動や児童会活動などを通して、自己有用感を育てられたか。
	③	体づくり・遊びなどの日常化	マラソン、体みがき、休み時間の遊びなどの場面で、子どもたちが自分から体を動かすよさを感じるようにはたらきかけたか。
		健康増進への取り組み	歯科指導、栄養指導など、子どもたちが自身の健康に意識を向けるような学習を行ったか。
	④	ふるさと学習の充実	地域の方と連携し、教科横断的なふるさと学習を実施できたか。
	学校運営	地域との連携	コミュニティ・スクール
PTA活動			コミュニティ・スクール実践目標のあいさつ・メディアとの関わりを重点に、学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
研修		授業づくり研修	「(自ら)気づき 問いかけ(考え) やってみる」子どもを目指して、教科研究を行い、一人一人が授業改善を行ったか。
		非違行為防止研修	定期的に研修を行い、非違行為防止に日々努めているか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
粘り強く学習に取り組む姿が増えてきているが、主体的な学びとなる授業づくり・振り返りなどの面でさらに改善したい。		○			主体的な学びとなるよう、振り返りを位置づけるとともに、児童の意識から授業をつくっていくように意識する。
ふるさと学習発表会や川西小学校との交流、音楽会などで、堂々と発表する姿が見られた。	○				自分の考えを発言できるよう、まちがってもいいという雰囲気づくりや意識共有を大切にしていきたい。
担任だけでなく、連学年の担任や支援員、養護教諭など、多数の職員で支援方法を相談しながら進めることができた。	○				必要に応じて、外部機関への相談なども活用しながら、さらに最適な学びについて考えていく。
みんなで遊ぶ日が定着し、休み時間にも学年が混じって遊ぶ姿が見られた。	○				保育園との交流を積極的に行っていきたい。縦割り班での話し合い活動も回数を増やしていきたい。
言葉遣いに気になる部分は見られるが、相手を気遣って声をかけるなどの姿も多い。	○				引き続き、相手を大切に言葉遣い、話の聞き方などを、子どもたちと話し合いながら考えていきたい。
児童会での新しい取り組みや、係活動の工夫など、みんなのためになることを考えて行動する姿が見られた。	○				自分の取り組みがどんなよさにつながったか、フィードバックする場を大切にしてい。
健康委員会の取り組みにより、マラソンに取り組む児童が増えた。校庭や体育館で遊ぶ姿が多く見られた。	○				引き続き、子どもたちがやりがいを感じられるような支援を行う。体みがき運動を朝の会などで継続して行う。
専門家の協力のもと、歯科指導、栄養指導、性教育などを行うことができた。カードなども使用し定着を目指した。	○				歯磨きなど、「やればいい」ではなく、「どのようにやるのがいいか」を考え実行していけるようにする。
例年通りではなく、子どもたちの願いから、地域の方と連携して活動を展開させ、ふるさとへの思いを深めた。	○				活動に取り組む前に、子どもたちの願いをもとに、お助け隊の方と打ち合わせを行うことを大切にしてい。
学校運営協議会だけでなく、コミュニティ委員会・お助け隊総会などで話し合いの場を大切にすることができた。	○				さらに、地域の方と子どもたちが直接話し合う場をもつなど、連携を高める場面をつくっていく。
子育て委員会で工夫して取り組んでもらうことで、メディアコントロールデーに積極的に取り組める児童が増えた。地域もともに取り組んでもらうことで、あいさつも向上している。		○			PTAの主体的な活動を大切にしながら、連携をとり負担が大きくなるようにしてい。
遠隔教育について有効な学習方法を試行した。今年度は一人一公開で授業を見合う機会を設けたが、なかなかお互いのよさを自分の授業に生かすことにつながらなかった。		○			遠隔教育についてさらに回数を増やしながら取り組むとともに、自分の授業を振り返り高めていく研修を行っていく。
研修自体を一人一人の職員が輪番で担当し、主体的に行うことができた。	○				研修を積み重ねるとともに、お互いにおかしいと思ったことを伝え合える雰囲気大切にしてい。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった